

## 教育学類

College of Education

- 学士（教育学）
- Bachelor of Arts in Education

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

養成する人材像	人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を有し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。
卒業後の進路	卒業生の約6割は企業や教員、官公庁など国内外で広く活躍しています。約4割は大学院に進学しています。

## 学位授与の方針 / Diploma Policy

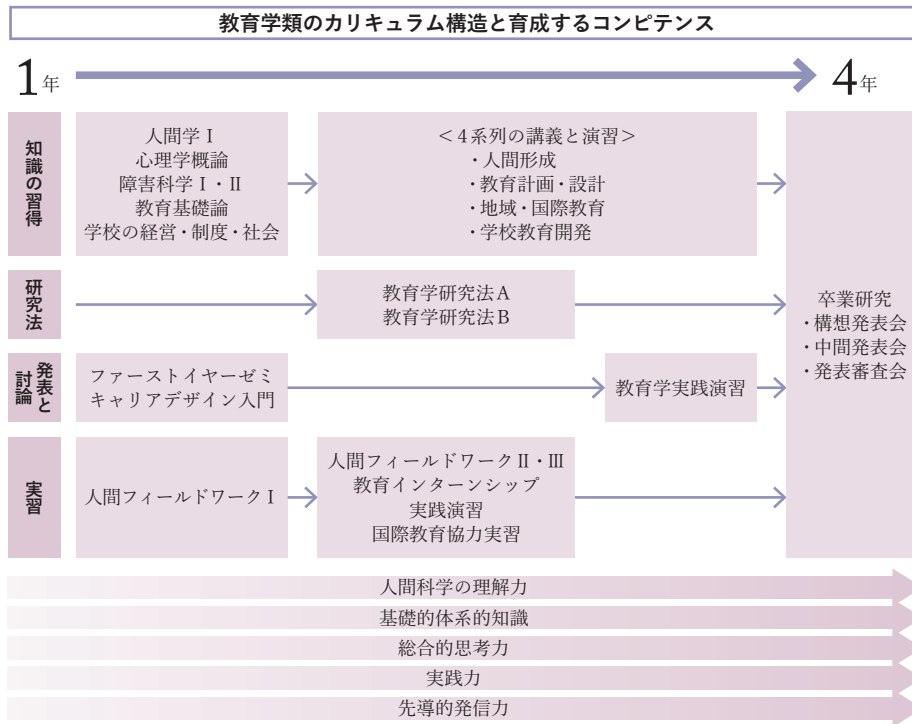
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（教育学）の学位を授与します。

知識・能力（専門コンピテンス）	1. 人間科学の理解力	教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている。
	2. 教育学の基礎的体系的知識	教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる。
	3. 教育学における総合的思考力	教育に対する知識や技能、判断を段階的に修得し、総合的な思考力を備えている。
	4. 教育学的実践力	教職などの専門職に採用される水準の教育専門家の資質・能力を備えている。
	5. 教育学に関する先導的発信力	教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている。
学修成果の評価に関する方針	<p>学修成果の集大成として卒業研究を重視し、2回の卒業研究指導会、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（専門コンピテンス）が修得できているかを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 卒業論文は、学類担当教員2名による査読を通じて、学修成果の達成状況を評価します。</li> <li>- 学類全体で行われる3回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を当該領域の教員で評価します。</li> <li>- これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。</li> </ul>	

## 教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（教育学）に関する学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p><b>教育課程の編成方針</b></p>	<p><b>総合的な方針</b></p> <p>授業科目を教育学の総合性に対応した4つの系列（人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列）に分類した上で、教育学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い教育学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。各科目は、カリキュラム・ポリシーに基づいて、体系的に編成しています。学生はこれらの4系列を指針としながら、将来の目的や関心に応じて様々な授業を履修することができます。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」の科目を履修し、そうでない学生は「教育学コース」の科目を履修することになります。</p> <p><b>順次性に関する方針</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次…「基礎科目（共通科目・関連科目）」と「人間学群コア・カリキュラム」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。</li> <li>- 2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履修します。</li> <li>- 3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系性を完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。</li> <li>- 4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会（構想発表会と中間発表会）で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。</li> </ul>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学校の教員や社会教育施設の専門家を招聘するとともに教育現場を訪問することで、「教育的実践力」「教育学における総合的思考力」を獲得するとともに、教育現場との連携・協力を行います。</li> <li>- 海外の教育現場で学ぶことができる授業も複数あり、「教育学の基礎的体系的知識」や「教育学に関する先導的発信力」をさらに高めることができます。</li> <li>- 定期的な卒業研究指導と厳格な評価を行うために、年間を通して卒業研究のための2回の卒業研究指導会、卒業研究発表会を全教員の参加の下に開催し、学修成果の評価を行っています。</li> <li>- 毎年3月に、学士課程の学生と教員、大学院生が一堂に会して「ペスタロッチ祭」に参加し、「人間科学の理解力」や「教育学に関する先導的発信力」の獲得を行うとともに、教育学関係のさまざまな学生と教員との人間的なつながりを確認する場に行っています。</li> <li>- 学生の「専門コンピテンス」獲得を促進するための教育活動を継続的に行うために、学生の学習指導・生活指導にかかわる情報を教員間で幅広く共有するとともに、FD委員会の活動を充実させて改善を継続的行います。</li> </ul>



## 入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。	
入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。
	個別学力検査等後期日程	広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。
	推薦入試	一定レベルの学力を有し、教育学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、教育学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。あるいは、教育学について明確な問題意識を持ち、その問題意識に関連した優れた活動実績を有するかどうかを評価します。
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、教育学類の学習について明確な目的意識を持ち、教育に関する領域で国際的視野に基づく活動を志しているかどうかを評価します。
	外国学校経験者特別入試	第1種) 教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適切できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適切できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。

## 学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 学修状況の確認と支援：学生はコンピテンスの達成状況の自己評価および今後の履修計画に関するコメントを記載した「達成度評価セルフチェック・コメント」を年に1回提出します。これを基に、クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況、コンピテンスの達成度を把握し、進級や卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画に関する個別の助言・指導を行います。</li> <li>- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。</li> </ul>
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 「教育学研究法 A・B」では、教員の指導の下、グループで協力しながら授業を進めます。資料の読み方やデータの分析を通じて教育学の研究手法を学ぶとともに、発表や意見交換を通じて学生同士の交流を深める重要な機会となっています。</li> <li>- 「教育インターンシップ実践演習」では、グループに分かれて、学校や社会教育施設に行き、そこでの活動に参加するだけでなく、参加学生同士の交流も深めています。</li> <li>- 学類として宿舍祭の参加を例年行っており、神輿つくりや物品販売などで学生同士の交流を深める機会となっています。</li> </ul>

<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 定員 35 人に対して 2 人の教員を担任として配置しています。担任教員は、学生ひとり一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行っています。</li> <li>- 3 年次に開講される「教育学実践演習」では、指導教員の下で卒業論文作成に向けたゼミ（研究活動）を行っています。ゼミによっては教員だけでなく大学院生も交えて研究のアイデアを出し合い、議論しながら研究を進めています。こうした過程を通じて、学びを深めるとともに、異なる視点や考え方に触れる貴重な交流の機会をとらえています。こうした協同的な学びを通じて、主体的に自己の研究に取り組む力や教育的な探究活動に対する姿勢を育てています。</li> </ul>
------------------------	---

**教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality**

- 教育課程委員会やファカルティ・ディベロップメント委員会が主導して学修成果の評価の集計と分析を実施し、教員全体で共有して、教育の質保証と改善の方策を行っています
- 年に 2 回実施される学群でのランチタイムミーティングや学類のクラス連絡会において、学生と教員が授業や日常生活についての話し合いを行っています。その内容を教員全体で共有した後、学類の教育課程や行事など教育の改善に取り組んでいます。
- 「キャリアデザイン入門」の授業後、卒業生から学生時代に学んだ内容が現在の実社会でどのように活かされているかについての意見を教員が聴取しています。また、定期的に卒業生に対して学類時代の学びを振り返るアンケートを実施しています。その内容を教員全体で共有し、教育課程の改善や発展につなげることを目指しています。
- 教育学域の同窓会組織である「ペスタロッツ祭」では、卒業生から社会について話を聞く機会を設けています。これにより、カリキュラムや教育内容、方法の見直しに活かすための貴重なフィードバックを得ています。

